

ニコンモジュライト リモートコントロールセット



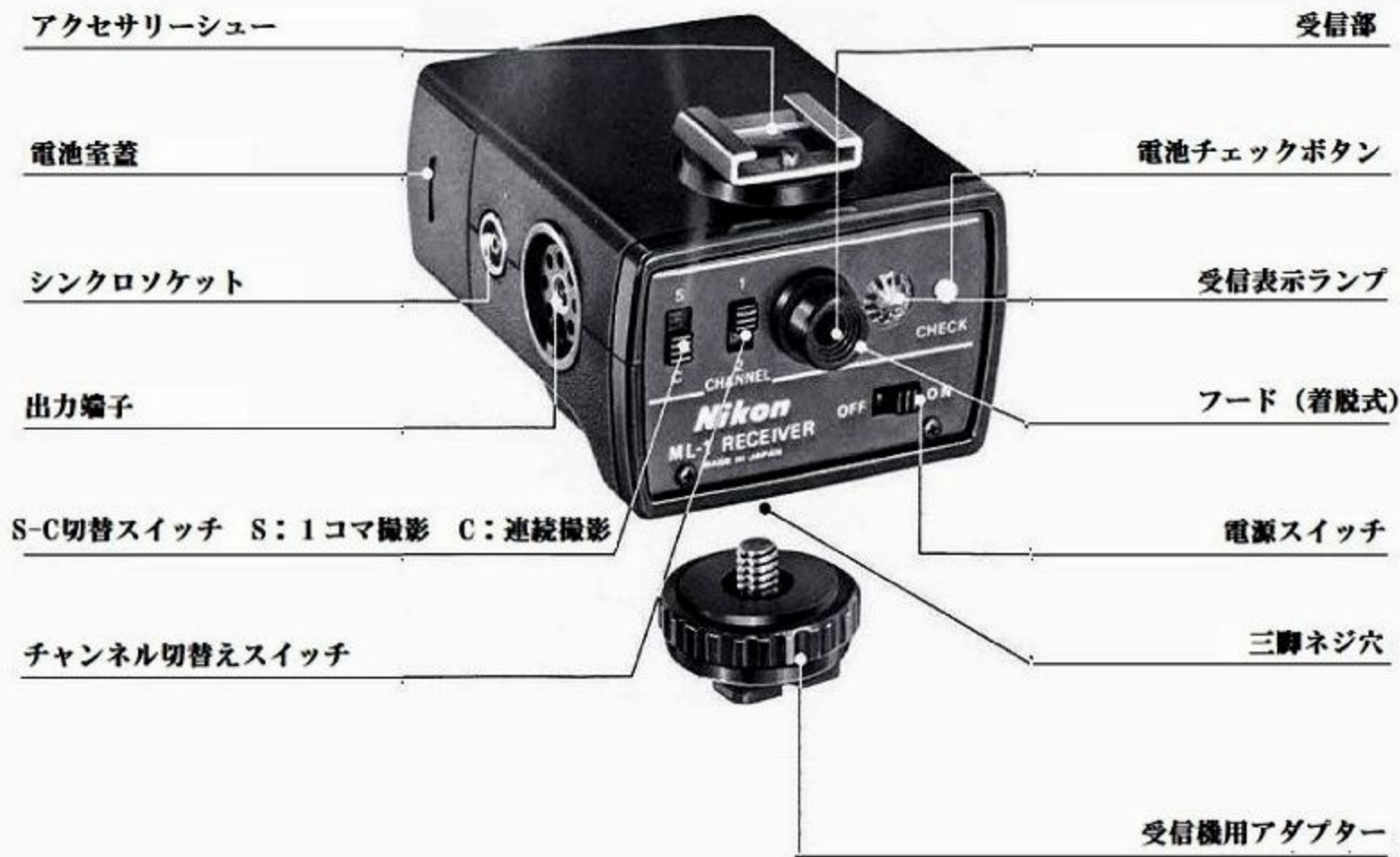
英語翻訳版

使用説明書

各部の名称



受信機



目次

各部の名称	2
まえがき	4
セットアップ	
電池の取り付け	5
電池残量確認	6
受信機とモーター駆動のニコンF2、ニコンFM、ニコンFEとの接続	7
受信機とR10/R8との接続	
スーパーズームシネマカメラ	7
チャンネルセレクトスイッチの設定	8
送信機と受信機の設置	8
電動F2ニコンの場合	10
電動FMおよびFEニコンの場合	11
ニコンR10/R8スーパーズームの場合	11
フラッシュ操作の簡単なヒント	12
機能／仕様	15
最適なバッテリー性能	15

まえがき

ニコン ML-1 モジュライトリモートコントロールセットは、ニコン FM、FE、すべてのニコン F2 カメラ、およびニコン R10/R 8 スーパーズームシネマカメラを含む、すべての現行ニコン電動カメラのリモートコントロールトリガー用に設計されています。このセットは送信機と受信機で構成され、どちらもカメラトリガー用の2つの操作チャンネルを備えています。したがって、2台の ML-1 受信機を使用することで、同じエリアにある2台のカメラをトリガーできます。

独自のモジュレーテッドライトシステムを採用しているため、ML-1 受信機は、ニコン SB-5 スピードライトユニットおよびニコン SU-1 センサーユニットと組み合わせて、マルチパイフラッシュ操作のリモートコントロールにも使用できます。

最良の結果を得るために、このマニュアルの指示をよくお読みください。ML-1 の操作を完全に習得するまで、マニュアルは手元に保管してください。ML-1は他のニコン製写真機器と連携して動作するように設計されているため、各製品の取扱説明書に記載されている詳細な手順もご確認いただくことをお勧めします。数分間の準備で、高額な費用がかかるミスを防ぎ、確実に成功へと導きます。

セットアップ

電池の取り付け

送信機：電池ホルダーの両側にあるローレット状のグリップ面を押し下げ、ホルダーを完全に引き出します。単3形ペンライト用電池1.5Vを4本挿入し、プラスとマイナスの端子がホルダーの対応するプラスとマイナスのマークに揃っていることを確認します。ホルダーをカチッと音がするまで所定の位置に差し込みます。

受信機：電池ケースのカバーを押し込み、刻印された矢印の方向にスライドさせてヒンジを外します。カバーを上を持ち上げて開きます。9Vラミネート乾電池1本を挿入し、プラスとマイナスの端子がホルダーの対応するプラスとマイナスのマークに揃っていることを確認します。



マイナス端子がチャンバー内の対応するマークに揃っていることを確認してください。カバーを閉じ、矢印の方向に最後までスライドさせてから、再びスライドさせてロックしてください。

重要！

- 電池の端子が正しく揃っていないと、機器は正常に動作しません。また、電池が液漏れして損傷する可能性があります。
- 電池の液漏れや消耗を防ぐため、送信機と受信機を使用しないときは電源を切ってください。送信機と受信機を長期間使用しない場合は、電池を取り外しておくことをお勧めします。



電池残量確認

送信機：電源を入れます。パイロットランプが点灯します。送信ボタンを押すと、ランプはすぐに消灯します。パイロットランプ（電池残量確認ランプも兼ねています）が再点灯するまでに5秒以上かかる場合は、電力不足です。4本の電池を同時に交換してください。



受信機：電源を入れ、電池残量チェックボタンを押してください。パイロットランプが点灯しない場合は、電池残量が不足しています。電池を交換してください。

重要！

スイッチをオフにしてもパイロットランプが点灯していても、送信機は作動しません。必ずスイッチがオンになっていることを確認してください。



受信機をモータードライブ式のニコンFM、FE、F2カメラに接続する

まず、受信機の取り付け脚をカメラのアクセサリーシューに差し込みます。（ニコンF2カメラの場合は、別売のフラッシュユニットカプラーAS-1を取り付ける必要があります。）次に、接続コードMC-8（ML-1に付属）の8ピンプラグを受信機出力端に差し込みます。次に、コードの3ピンプラグをモータードライブの3ピンソケットに差し込み、コードのネジを締めて固定します。

三脚を使用する場合は、必ずレシーバーからアクセサリアダプターを取り外してください。

レシーバーをニコンR10/R8スーパーズームシネマカメラに接続する

まず、レシーバーのマウントフットをシネカメラのアクセサリーシューに直接差し込みます。次に、接続コードEA-4（ML-1に付属）の8ピンプラグをレシーバーの出力端子に、6ピンプラグをカメラのリモートコントロールソケットに差し込みます。三脚を使用する場合は、必ずレシーバーからアクセサリアダプターを取り外してください。



チャンネルセレクトスイッチの設定

送信機と受信機のチャンネルセレクトスイッチは同じチャンネルに設定する必要があります。つまり、送信機がチャンネル1に設定されている場合、受信機もチャンネル1に設定する必要があります。

2台のカメラを2台の受信機に接続し、受信機をそれぞれチャンネル1とチャンネル2に設定している場合、1台の送信機で2台のカメラを制御できます。チャンネルセレクトスイッチを適切に設定するだけで済みます。



送信機と受信機の設置 受信機を障害物のない場所に設置する際は、受信機の受信部が送信機の送信部に正対するようにしてください。必要に応じて、受信機のアクセサリシューを回転させてください。これにより、約60メートルの範囲内でリモコン操作が可能になります。ただし、受信機の受信部に太陽光が直接当たるなど、気象条件によりこの範囲が短くなる場合があります。その場合は、受信部の向きを変えるか、フード（ML-1セットに付属）を受信機にねじ込んでください。

建物や壁などの反射面がある場所では、その反射率により、送信部と受信部が正対していなくても操作できる場合があります。たとえば、室内では、送信部と受信部が全く反対方向を向いていても操作できます。

いずれの場合も、実際の撮影を行う前に、送信機と受信機の両方が正しく機能することを確認してください。

電源を入れます。ML-1 セットは運用準備が完了しました。

撮影モードには、連続撮影とシングルフレーム撮影（1コマ撮影）の2種類があります。

どちらのモードでも、モータードライブまたはシネカメラ本体で行う必要がある調整を必ず行ってください。これらの調整は表1～4に記載されています。

撮影モードに関係なく、以下のことを確認してください。

1. 電源を入れると、送信機のパイロットランプが点灯します。
2. 受信機のパイロットランプが点灯し、動作中であることを示します。
3. 受信機のパイロットランプが消灯し、動作が停止していることを示します。

モータードライブF2での連続撮影またはシングルフレーム撮影については、次ページの表7と表2を参照してください。FMまたはFEの場合は表3を参照してください。ニコンスーパーズームシネカメラの場合は表4を参照してください。

操作 -モーター付き

-モーター付きNikonF2

表1 モータードライブ式ニコンF2シリーズ（MD-1/2使用時）の設定と操作

撮影モード	設定			操作	
	全F2シリーズ	MD-1/2 モータードライブ		ML-1 レシーバー	ML-1 トランスミッター
	シャッタースピードダイヤル	S/Cノブ	発光速度 セレクターノブ	S/Cスイッチ	トランスミッションボタン
連続	1/125~1/2000秒 (ミラーアップ) 1/125~1/2000秒, 1/60~1/2000秒, 1/8~1/2000秒, 1/4~1/2000秒	C	H M1 M2 M1 L	C	押すと撮影開始、 もう一度押すと停止
1コマ	1-1/2000秒とB	S	As desired	C	押すとシャッターが開き、 もう一度押すとフィルムが送られます。
	1/125-1/2000秒	S	As desired	S	押すとシャッターが開き、 フィルムが送られます。
	1/125~1/2000秒 (ミラーアップ) 1/125~1/2000秒 1/60~1/2000秒 1/8~1/2000秒 1/4~1/2000秒	C	H M1 M2 M1 L		

表2 (MD-3使用時)

撮影モード	設定			操作	
	全F2シリーズ	MD-3 モータードライブ	ML-1 レシーバー	ML-1 トランスミッター	
	シャッタースピードダイヤル	S/Cノブ	S/Cスイッチ	トランスミッションボタン	
撮影モード	1/80-1/2000秒	C	C	押すと撮影開始、もう一度押すと停止します	
1コマ	1-1/2000秒とB	S	C	押すとフィルムが巻き上がります。もう一度押すとフィルムが巻き上がります。	
	1/80-1/2000秒	S	S	押すとシャッターが作動し、フィルムが送られます	
	1/80-1/2000秒	C			

※注意：低速シャッタースピード設定時は、シャッターが完全に閉じるまでシャッターボタンを2度押さないでください。
B設定時は、2度目の押し込みでフィルムの露光も完了します。

モーター駆動のFMおよびFEニコン

表3 モーター駆動のFMおよびFEニコンの設定と操作

撮影モード	設定				操作
	FM	FE	MD-11 モータードライブ	ML-1 レシーバー	ML-1 トランスミッター
	シャッタースピードダイヤル	シャッタースピードダイヤル	S/C リング	S/C スイッチ	トランスミッションボタン
連続	1/2-1/1000秒 8秒と1秒は 使えません。	オート、8~1/1000 秒、M 90； Bは使用できません。	C	C	押すと撮影が開始され、もう一度押すと撮影が終了します。
1コマ	1~1/1000秒； 使用できません。		S	C	・押すとシャッターが起動し、もう一度押すと 10 mm 進みます。
			S	S	シャッターを押してフィルムを巻き上げます。
			C	S	

*注意: 低速シャッター速度を使用しているときに、露出が完了する前に送信ボタンを2回目に押すと、シャッターが閉じるまでフィルムは送られません。

Nikon R10/RSスーパーズームシネマカメラの場合

表4 Nikon R10/R8スーパーズームシネマカメラの設定と操作

Shooting mode	設定				操作
	RS		R10	ML-1 レシーバー	ML-1 トランスミッター
	走行速度 コントロールダイヤル	S/Cスイッチ	走行速度 コントロールダイヤル	S/Cスイッチ	トランスミッションボタン
連続	18,24,54	C	18,24,54	C	押すと撮影開始、もう一度押すと停止します（1秒ほどお待ちください）。
1コマ	18	S	SF	S	押してシャッターを切ります。1枚目フィルムを巻き上げます。

注意: シネマカメラの自動露出制御は連続撮影でのみ機能します。単一フレーム撮影の場合は、カメラを手動制御に設定します。

ML-1トランスミッターは多灯撮影には使用しません。この場合、ニコン SU-1センサーユニットを装着したニコンスピードライトユニット SB-5がトランスミッターとして機能します。カメラに接続するユニットがSB-5で、対応する数のレシーバーがあれば、スピードライトをいくつでも使用できます。

セットアップ

必要なシンクロコードを使用して、スピードライトをML-1レシーバーのシンクロターミナルに接続します。

レシーバーを三脚に取り付ける場合は、レシーバーのアクセサリアダプターを取り外してください。その場合は、レシーバーとスピードライトを写真のようにセットアップしてください。

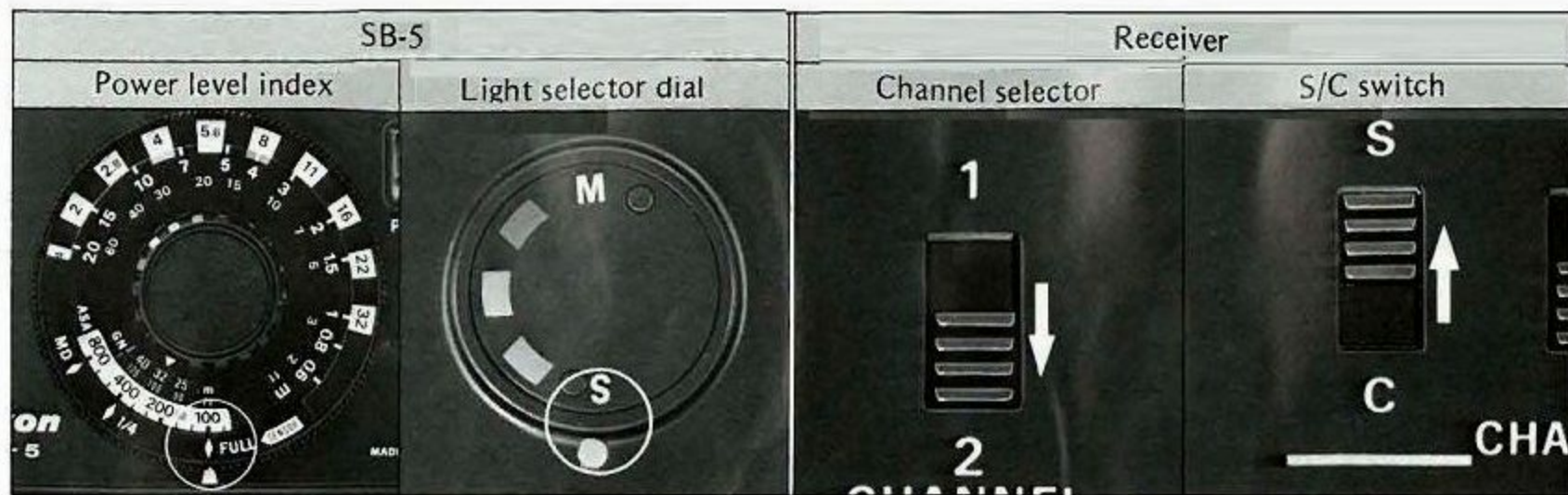
操作

レシーバーのチャンネルセレクトはすべてチャンネル2に設定されています（チャンネル1は使用できません）。レシーバーのS/Cスイッチは「S」に設定されています（「C」も使用できますが、この設定では消費電力が増加します）。Nikon SU-1センサーユニットをSB-5に装着し、SU-1のライトセクターダイヤルを「S」に、SB-5の発光レベルインジケータを「FULL」に設定します。

露出制御

露出は、使用するスピードライトの台数、方向、作動距離など、様々な要因によって決まるため、フラッシュメーターを使用するか、使用するスピードライトのガイドナンバーに基づいて計算し、手動で露出を制御することをお勧めします。





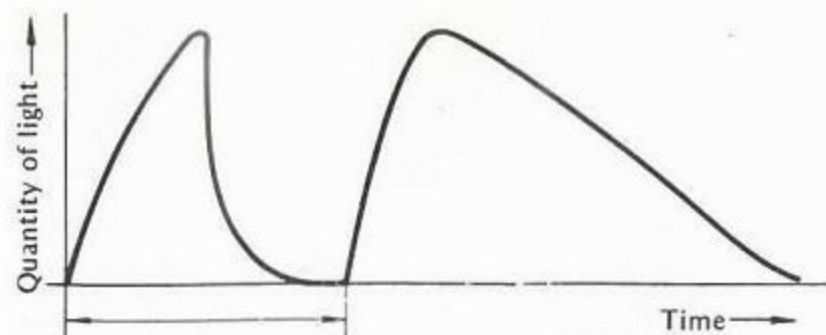
複数回のフラッシュ操作 - 続き

フラッシュ同期

ML-1は独自の調光システム（下の比較表を参照）を採用しており、他のスピードライトの発光量に影響を受けません。ニコンおよびニッコールマウントカメラとのフラッシュ同調については、下表をご参照ください。

重要！

ニコン製スピードライトは、ML-1レシーバーの電圧、電流、同調回路の極性と完全に一致しています。他社製のスピードライトを使用すると、レシーバーが誤動作する可能性があります。



カメラの種類	シャッターダイヤル	同期連絡先
Nikon F2シリーズ	1/60秒以下	内蔵セレクトは、シャッター速度の変化に応じてスピードライト同期調整を自動的に制御します。
Nikon FM		
Nikon FE	1/60秒以下 (M90) (マニュアル)	
Nikon EI2	1/60秒以下	ローレットシンクロ選択リングを持ち上げシャッタースピードダイヤルを回して、選択ウィンドウにFXマークが表示されるまで回します。(Photomic FTNファインダーは、シンクロ選択リングから取り外す必要があります。)
Nikkormat FT2 および FT3		
Nikon F Photomic FTN	1/30秒以下	
Nikkormat EL, ELW	1/60秒以下 (マニュアル)	ミルド・コクターリングを持ち上げ、セレクト・ウィンドに照明記号が表示されるまでダイヤルを回します。
Nikkormat FTN	1/60秒以下	スピードライトのシンクロソケットをカメラ本体の10X端子にアクセサリコードで接続します。

注: Nikon R10/R8 スーパーズーム シネカメラでは調整は必要ありません。

特徴/仕様

最大作動距離：光軸方向60m (196.8フィート)

動作チャンネル数：2

送信間隔：1～5秒 (可変)

発光回数

(5秒間隔で発光した場合)

高出力マンガン電池：約300回

アルカリマンガン電池：約750回

発光角度：30° × 40°

受光角度：フード装着時：約60° (対角)、

フード非装着時：約100° (対角)

(周囲の状況により変動する場合があります)

受信機連続待機時間：約100分約9時間

電源

送信機：1.5V単3形ペンライト電池4本

受信機：9Vラミネート乾電池1本

寸法

送信機：40 x 40 x 130mm (1.5 x 1.5 x 5.1インチ)

受信機：50 x 62 x 80mm (1.9 x 2.4 x 3.1インチ)

重量

送信機：約130g (電池なし)

受信機：約170g (電池なし、フードおよび

アクセサリアダプターを含む)

バッテリーの最適なパフォーマンス

1) バッテリーの購入：製造時から初めて使用する時までの間に、すべてのバッテリーはある程度の電力を消費します。常に最新のバッテリーを購入してください。製造年月日 (通常、バッテリーメーカーが各バッテリーの底面に刻印しています) を確認してください。製造年月日がコードで表示されている場合は、カメラ販売店にコードの解釈を依頼してください。

2) バッテリー寿命：定格は20°C (68° F) で動作に基づいています。その他の温度では、バッテリー寿命は短くなります。これは特に極端に低い温度で顕著です。例えば、0°C (32° F) では、バッテリー寿命は定格の1/3に短くなります。そのため、低温時には予備バッテリーを用意するか、バッテリーを温めるなどの対策を講じてください。

3) 連続使用：バッテリーは使用と使用の間にある程度の電力を回復します。そのため、バッテリーを連続使用するのではなく、断続的に使用することで、バッテリー寿命を延ばすことができます。

4) 保管：電池の消耗を最小限に抑え、液漏れによる機器の損傷を防ぐため、使用していない時は必ず電池を取り外してください。使用していない電池は、涼しく乾燥した場所に保管してください。これにより、電池の消耗をさらに抑えることができます。

5) 電池の「混用」：異なるブランドの電池、異なる型番の電池、または古い電池と新しい電池を混用しないでください。液漏れが発生し、機器が損傷する可能性があります。

6) 極性：電池を取り付ける際は、電圧の極性に注意してください。プラス (+) とマイナス (-) を逆に取り付けると、液漏れが発生します。液漏れが発生した場合は、機器を販売店に持ち込むことをお勧めします。

(Nikon)
NIPPON KOGAKU K.K.